

新年おめでと ございます

ご清祥にて新年を迎えられたことと存じあげます。昨年
は新型コロナウイルス一色の年でありました。感染拡大を止めるため県も人事から見直し、新たな
専門部署を設け日夜対応しております。医療費補助
や経済支援など多岐にわたる支援事業を全庁を挙げて
積極的にを行う一方、財源も際限なくあるわけでは
なく、対策が十分であると言えないかもしれません
が、引き続きご理解の程宜しくお願い致します。

県議会においては建設委員会に所属し、海部津島地
域の道路整備はもちろん、河川、下水道など、インフラ
整備予算を確保できるよう励んでおります。市内道路
においては南北軸の弱さが顕著となり渋滞など、解決
しなければならぬ課題が山積しています。155号
(名古屋第3環状線)の整備を早期整備することが何よ
り大事であります。また東西軸においては、弥富名古屋
屋線の整備が大詰めとなっており、期待が高まる中、
JR東海との協議の結果、整備完了が最大300日延
長してしまうこととなり、落胆の声も届いております
が、令和4年度内の完成に向けて着実に事業が前進して
いくよう引き続き努力して参ります。

さて、令和2年11月27日より20日間「11月定例議
会」が開かれましたのでここに報告させていただきます。

結びに、本年が皆様にとって充実した一年となり
ますよう、併せて新型コロナが終息に向かうことを
心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。



愛知県議会議員

朝日 将貴



発行人/朝日将貴

住所：弥富市五明二丁目34番地
TEL：(0567)65-1131
FAX：(0567)65-2131
e-mail:
info@asahimasataka.com

新年号

令和2年度
11月議会号
Vol.K-06

愛知県議会議員 朝日まさたか

あさひ通信

新型コロナウイルス感染症対策

**移動の多い時期です。感染拡大防止を念頭に
ご協力お願い。**

タクシーやバス・電車等の公共交通機関では常にマスクを着用し、大声での会話は控えて下さい。
特に、飲酒後の乗車時は心がけて下さい。
首都圏や感染拡大地域への不要不急の移動は控えて下さい。
普段からマスクの着用
手指の消毒を心がけて
下さい。

嚴重警戒 第3波

営業時間短縮エリア拡大

「愛知県感染防止対策協力金」交付

対象施設：県内全域の接待を伴う飲食店（スナック・クラブ等）
酒類を提供する飲食店及びカラオケ店等（バー等も含む）
対象期間：2020年12月18日（金）～
2021年1月11日（月）までの25日間
※全期間でなくても、期間短縮に協力した日数分支給されます。
年末年始の休業も対象です。

支給額：上記期間 1店舗4万円（1事業者每ではなく1店舗対象）

従前より午後9時から午前5時の間に営業を行っている飲食店等が、対象期間中の午後9時から午前5時の営業を自粛し

営業時間の短縮、もしくは休業を行うことが条件。また、業種別のガイドラインを遵守し、愛知県の「安全・安心宣言施設」への登録、PRステッカーとポスターの啓示を行うこと。
未登録の場合は登録が必要です。
下記へお問い合わせ下さい。

営業時間短縮要請、愛知県感染防止対策協力金、「安全・安心宣言施設」PRステッカー等についてご不明点はお問合せください。

県民相談窓口 ☎ 052-954-7453

午前9時から午後5時まで。

土日祝日含む毎日。12/29～1/3は除く



農業の現場は、多くの作業が人手に頼り、熟練者の経験値で行われています。担い手が減少する中、一人あたりの作業面積も現状の作業手順では広げられません。
これからは、生産ノウハウのデーター化、センシング技術を活用した省力化、トラクターなどの作業機械の遠隔操作などを進め、ICT技術を駆使し、負担軽減と生産性向上を目指した技術開発が重要となります。



「スマート農業」現況視察 後継者不足・放置された農地の増加・重労働 様々な問題解決の一翼が「スマート農業」

人手のいる作業をできる限り少なくし、事業としての農業を確立させ、若者や女性の参画を促すことができよう仕組みを構築していく必要があります。
もちろん課題もありますが、安定した生産量と品質管理で、農業の未来を構築できると思います。

兼業での管理に可能性

例えば、センシング技術により、遠隔での情報把握、遠隔での散水や温度管理が可能となれば、会社員でも昼休みに農業ができることとなります。

JA西三河きゅうり部会で
昨年から2年計画で行われている
「スマート農業技術の開発・
実証プロジェクト」
を視察してきました。

ハウス内をセンシング技術で
温度、湿度、CO2、土壌ECデータ
を自動でリアルタイムに情報収集
栽培制御プログラムで作業効率向上
・吸水量や吸肥量データを栽培へフィードバックさせるといった情報や技術をもとに土耕で作った場合より更に
溶液栽培（水耕）では収益向上
また、カメラを自動で走らせて葉や茎、花や果実などを自動で判別させる技術など、様々なデータから2週間後の出荷量を予測して経営の安定化に繋がっているそうです。未来がここに。